

# 大阪市西淀川区、野里住吉神社（1382年）の末社と 石燈籠と鳥居

—末社と石燈籠の解析および鳥居の測量値と模型製作—

沢 勲\*・西山 正明\*\*・石田 信也\*\*\*・北川 和孝\*\*\*\*

## Massha and Stone Lantern and Torii of the Nozato- Sumiyoshi Shrine, Nishi-Yodogawa Ward, Osaka City.

—Analysis of Massha and Stone Lantern, Surveying Value and Modelling of Torii—

Isao SAWA\*・Masaaki NISHIYAMA\*\*

Shinya ISHIDA\*\*\*・Kazutaka KITAGAWA\*\*\*\*

### 要 旨

我々の研究は、大阪市西淀川区、野里住吉神社の由来と鳥居についてである。野里住吉神社の御座地は大阪市西淀川区野里1丁目16-23である。西淀川区の神社は、869～1688年ごろに創建され、鳥居は1511年～2007年までに建立している。その中で野里住吉神社の創建は、1382年で、鳥居は1738年～1936年の間に建立している。野里住吉神社は、仁徳天皇の皇后、万葉歌人・大伴家持、一夜官女、細川家内紛、足利三代将軍の義満との深い因縁が認められた。

末社の高さは1.90mから2.49mの範囲で、平均2.22mである。石燈籠は1.72mから3.39mの範囲で、平均2.58mである。鳥居の貫の高さは、下点2.82mと上点3.07mである。鳥居の笠木の高さは、下点3.54mと上点3.73mである。鳥居については、鳥居の測量値は、科学的管理法によって解析をおこなった。近年でも水害、台風、地震、空襲などで打撃を受けながらも、それを乗り越えて生き残っている。この貴重な文化遺産を記録し、大切に引き継いで行きたい使命と目的から纏めたものである。

### 目次

1. はじめに
2. 野里住吉神社の社殿
3. 野里住吉神社の末社の測量と解析

---

\*大阪経済法科大学、\*\*西山組、\*\*\*一級建築士事務所ADE、\*\*\*\*辰美工芸

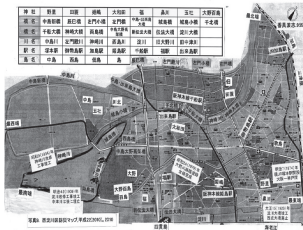
4. 野里住吉神社の測量と解析
5. 野里住吉神社鳥居の測量値と解析
  - 5-1. 野里住吉神社鳥居の特徴
  - 5-2. 野里住吉神社鳥居の名称解説
  - 5-3. 野里住吉神社鳥居の計測結果と解析
  - 5-4. 野里住吉神社鳥居の計測結果と解析
  - 5-5. 野里住吉神社鳥居の模型製作
6. 淀川戎神社の社殿と戎さん
  - 6-1. 淀川戎神社の社殿
  - 6-2. 淀川戎神社の戎さん
7. 野里住吉神社の環境
  - 7-1. 野里住吉神社の神木と樹木
  - 7-2. 野里住吉神社の手水舎 と太鼓橋
8. おわりに

**キーワード** 末社、石燈籠、鳥居、測量値解析、鳥居模型製作

## 1. はじめに

本研究は、大阪の文化遺産学として、地域に貢献する資料を後世に残す参考文献として作成した。本稿は、大阪市西淀川区、野里住吉神社で行った洞窟環境NET学会と関西大学校友会西淀川支部鳥居総合学術調査（2010）報告の一部である。野里住吉神社は、「野里村を水害や災から守る目的」で室町幕府足利義満三代将軍によって、永徳2（1382）年に創建され、大阪市の西部に位置し（写真1左側）、行政上は大阪市西淀川区野里1丁目15-12に属する。西淀川区の南東部にあり、その数値位置は北緯34° 42′ 35″、東経135° 27′ 46″を示す鎮座地である。鎮座地は、標高（1 m）、面積（3799.9平方m＝約1151.5坪）と外周距離（0.3 k m＝295m）である。鳥瞰図と本殿は、写真1右側である。

大阪市西淀川区、野里住吉神社（1382年）の末社と石燈籠と鳥居（沢・西山・石田・北川）



西淀川区とその周辺  
平成6（1994）年



野里住吉神社の鳥瞰図



野里住吉神社の社殿写真

### 写真1. 大阪市西淀川区の野里住吉神社の位置

本神社に関してはこれまで本格的な学術調査は行われていない。新淀川と交差する旧中津川に近接した位置にあり、台風や水害が多く、貴重な歴史文化遺産が消失しているため、残された歴史の文化遺産をどのように保存できるかを工夫した。後世に残す貴重な遺産を継承する関連性も興味深く、そうした点が本神社調査の最初の動機となった。

野里住吉神社の行政と歴史的関連は、つぎのように要約できる。

- ① 安閑天皇（534～535）時代、奉献された三野郷（みのごう）が、この地域をさす。
- ② 南北朝時代（1331～1392）、地域が開発された時期。
- ③ 永徳年間（1381～1384）、地域の開発が進み、住吉大神を勧請。
- ④ 永徳2（1382）、室町幕府足利義満三代将軍によって本神社は創建。
- ⑤ 戦国時代 享禄4（1531）、細川家内紛から戦に発展した「野里川（中津川）の合戦」と「島村蟹」事件。
- ⑥ 明治5（1872）、本神社は、村社・郷社に列していた。（大阪神社史 p.410）
- ⑦ 明治40（1907）、大阪府告示493号によると、会計規定適用を指定。（西成郡史 p.835）
- ⑧ 明治42（1909）、大阪府告示によると 神饌幣帛料供進社に指定。（大阪神社史 p.410）
- ⑨ 昭和47（1972）、「一夜官女祭」を大阪府文化財保護委員会が重要民俗資料として認定。
- ⑩ 明治末期の新淀川開削までは、旧中津川右岸に接する、住吉神社の東側に堤防があった。
- ⑪ 中津川には野里の渡しがあり、尼崎へ抜ける八丁街道の交通の要衝であった。

現地調査（2009年9月）では、縮尺（3万分の1）の大縮尺図上での正確な位置を確認した。既存の神社関連資料情報を収集して、鳥居の規模と形態、成因等についての概要を把握し、構成要素の現象を示す事実を明らかにした。そして、区内にある神社と鳥居の大きさに重要な関連性があることを予測した。調査の成果と問題点については、次のように要約できる。

①調査の主体は本殿と拝殿の構造物と環境、末社の撮影と測量、鳥居の測量と模型製作、石灯籠の測量である。②区内において、神社と鳥居の存在に関する報告はこれまで皆無である。

③単に生駒山の火山活動史だけでなく、北摂の堆積流とその沿岸地域の海岸地形発達史や環境変遷史との関わりで、神社がどのような位置づけや問題点を有しているかという検討が重要である。

2010年夏、西淀川区民祭において中間報告を行った。今後の研究課題、そして神社の保全と環境問題などについて所見を整理した。さらに、周辺地区と神社との関連について検討した。短時間の調査であつたため、未解明の事項が少なくない。今後も調査を継続する予定であるが、とりあえずこれまでの成果、今後の研究課題、そして神社の保全問題などについて所見を整理した。測量値は、多項式によって解析を行った。以下報告する。

## 2. 野里住吉神社の社殿

本殿（ほんでん）は、祭神を奉斎する建物で、御神体奉安の場でもあり、御神体が安置される中心の建物でもある。大神神社のように三輪山を御神体として本殿を持たない神社もある。主な形式は、神明造り、大鳥造り、住吉造り、大社造り、春日造り、八幡造りであり、本殿・神殿・正殿がある。本殿の規模は、正面から見る柱間の数で表示する。例えば、三間社とは、正面に柱が四本立っていて柱と柱の間が三つである。「間」は、柱間が一尺でも十尺でも一間と数える。普通は、一間社が圧倒的に多い、全体の九割以上を占め、残りは三間社である。

神社本殿は、建築構造から身舎（おもや・母屋）と庇（ひさし）に区分される。向拝や流造と春日造の庇には、角柱を用いる。円柱は正式の柱、角柱は略式の柱と規定する。野里住吉神社本殿の構造は、神社の殿舎の重要な点として、様式が厳重に守られてきた日本の建物では、出入口の位置（妻入りと平入り）で分類できる。妻入りは、大鳥造・住吉造・春日造などがある。平入りは、神明造・流造・八幡造・日吉造がある。

社殿の建築様式に関連する項目を図表したのが、別表1（社殿の建築様式の系統図）と別表2（建築様式と野里住吉神社）との関係である。さらに、これらの系統別項目を探検するために、別表3（社殿の建築様式の系統図探検手法）を考案した。

妻入様式（つまいりようしき）は、神社本殿の短辺側あるいは屋根の棟（大棟）と直角な面を「妻（つま）」という。「妻」側から出入りするものを「妻入り」という。妻とは、建物の中央に対して他端を意味する「端（つま）」の語源である。妻入様式の有・無には、千木（有）・鯉木（3、4、5本が有）・切妻造り（有：への字形屋根）・妻入り（有：棟と垂直な壁にある出入口）・妻入屋根（有：棟と垂直な壁にある出入口上の屋根）・平入り（無：棟と平行な壁に出入口）・反り増し（有と無：曲線状の屋根）に区分できる。妻入様式は大社造：出雲大社、春日造：春日大社、住吉神社がある。

大社造（たいしゃづくり）は、出雲大社に代表される神社本殿形式の一つである。妻入様式の大社造の有・無には、千木（有）・鯉木（3本：男神を祀る）・切妻造り（有：への字形屋根）・

妻入り（有・）・妻入屋根（有）・平入り（無）・反り増し（有）に区分できる。この区分から整理すれば、平入り以外はすべて設置しているのが特徴である。入口が片寄り。掘建柱。棟持柱。掘建柱。内部に中心柱。宮殿風。男神を祀る鰐木。千木の先端は垂直に切断している。

春日造（かすがづくり）は、春日大社に代表される神社本殿形式の一つである。妻入様式の春日造の有・無には、千木（有）・鰐木（2・4本：女神を祀る）・切妻造り（有）・妻入り（有）・妻入屋根（有）・平入り（無）・反り増し（有）に区分できる。この様式から整理すれば、平入り以外の設置が特徴である。大社造との違いは、鰐木の数である。彩色がほどこされている。正面に庇がある。掘立柱。向拝つき。女神を祀る鰐木。千木の先端が垂直に切断。曲線と彩色が導入された様式。正面に庇（ひさし）。屋根を反らしたものが春日造の特色である。

住吉造（すみよしづくり）は、住吉神社に代表される神社本殿形式の一つである。妻入様式の住吉造の有・無には、千木（有）・鰐木（5本：男神を祀る有）・切妻造り（有）・妻入り（有）・妻入屋根（無）・平入り（無）・反り増し（無）に区分できる。この様式から整理すれば、妻入屋根・平入り・反り増し以外は設置しているのが特徴である。大社造との違いはシンプルである。切妻造り、妻入り、入口は大社造りと違い、正面に付くなどの特徴がある。本殿内部は2室。後室が神座。掘建柱。男神を祀る鰐木。千木の先端は垂直に切断。柱は朱、壁は白に塗る。

平入様式（ひらいりようしき）は、神明造：伊勢神宮、流造：賀茂神社、流造：賀茂神社、日吉造：日吉大社、八幡造：宇佐神宮などである。神社本殿の長辺側あるいは屋根の棟（むね）（大棟）と平行な面を平（ひら）といい。平入りは「平」の側に出入口があるものを指す（屋根に庇のある面から入る）。平入様式には、千木（有と無いいずれか）・鰐木（有と無いいずれか）・切妻造り（有）・妻入り（無）・妻入屋根（無）・平入り（有）・反り増し（有と無いいずれか）に区分できる。

神明造（しんめいづくり）は、伊勢神宮に代表される神社本殿形式の一つである。平入様式の神明造の有・無には、千木（有）・鰐木（5本：男神を祀る有）・切妻造り（有）・妻入り（無）・妻入屋根（無）・平入り（有）・反り増し（無）に区分できる。最古の形式には、他に大社造、住吉造がある。棟に破風を延長して作った。千木と鰐木には、金銅製の装飾金具が取り付け、耐候性を高められる。屋根を支える側面の破風（はふ）は継手ととどまらず、先端が飛び出し「千木（ちぎ）」となる。千木の先端は水平に切断されている（伊勢神宮）。千木はV字タイプ。三角屋根。棟持柱である。

流れ造（ながれづくり）は、賀茂神社に代表される神社本殿形式の一つである。平入様式の流れ造の有・無には、千木（有）・鰐木（5本：男神を祀る有）・切妻造り（有）・妻入り（無）・妻入屋根（無）・平入り（有）・反り増し（有）に区分できる。神明造りの流れを組むもので、正面入口にあたる屋根の一方が長く延びている特徴がある。前面の屋根が長い。井桁に組んだ土台。男神を祀る鰐木。千木の先端は垂直に切断。側面から見ると、前後が不同。正面の柱間

は規模によって異なる。

八幡造（はちまんづくり）は、宇佐神宮に代表される神社本殿形式の一つである。平入様式の八幡造の有・無には、千木（無）・鯉木（無）・切妻造り（有）・妻入り（無）・妻入屋根（無）・平入り（有）・反り増し（有）に区分できる。切り妻造り、平入りの建物を前後二棟並べたもので、前の建物を外殿、後ろの建物を内殿という。切妻造・平入りの建物が二棟前後に接続した様式で、本殿は2室で、向拝つきで、共用の樋、前後二棟が並ぶ。後ろの建物を内殿、前の建物を外殿と呼ぶ。横から見るとM型で、前後に建てた建物である。

向拝（ごはい）は、階段の上部に屋根をのぼして雨よけとした庇で、主に入母屋造りの本殿に用いられる向拝には角柱を使用する。千木（ちぎ）は、交差する二本の木を屋根上に置いたもので、神社本殿の象徴となっている。その上端は、ほぼ垂直に殺ぐ（切る）のが通例であるが、極まれに水平に殺ぐ例もある。伊勢神宮では、内宮が水平、外宮が垂直である。女神を水平、男神を垂直とする説、また、地祖の神は垂直、他から入ってきた神は水平といった説もある。神社建築の装飾品の一種屋根の棟の両端に、交差して突き出している2本の木で、本来は屋根を支える構造材であった。

鯉木（かつおぎ）は、神社や宮殿の屋根上にあり、棟木のうえに横に配置された円筒状の木で棟の補強材であった。かつお節に似ていることからこの名があるといわれている。鯉木・堅男木・葛楮木・勝男木も同じである。本神社の社殿建築様式は住吉造であり、左写真は、社殿西側から撮影し、右写真は、東側から撮影した（写真2）。



社殿の社屋と東側



社殿の社屋と西側



社殿の社屋と北側

## 写真2. 野里住吉神社の社殿の社屋

野里住吉神社は、平入様式で、本殿と拝殿の有・無には、千木（有）・鯉木（5本：男神を祀る）・切妻造り（有）・妻入り（無）・妻入屋根（無）・平入り（有）・反り増し（有）に区分し、神明造と流れ造の流れを組むものである。本殿と拝殿は前後が並び、千木はV字タイプで、鬼板で、ひれと拌み打ちがあり、千木の先端は斜面に切断している。ゆえに、流れ造と神明造・伊勢神宮を組み合わせている特徴が感じられる。

月頼稲荷神社（つきよりいなりじんじゃ）は、平入様式で、本殿と拝殿の有・無には、千木



大阪市西淀川区、野里住吉神社（1382年）の末社と石燈籠と鳥居（沢・西山・石田・北川）

（有）・鯉木（4本：女神を祀る有）・切妻造り（有）・妻入り（無）・妻入屋根（無）・平入り（有）・反り増し（有）に区分できる。流れ造の流れを組むもので、正面入口にあたる屋根の一方が長く延びている特徴がある。前面の屋根が長い。男神を祀る鯉木。千木の先端は垂直に切断。側面から見ると、前後が不同である。

野里住吉神社の本殿は、写真3右側である。祭神は大阪市住吉区の元官幣大社。住吉大社と同じで表筒男命・中筒男命・底筒男命と神功皇后を祀る。他境内社は、淀川戎神社五座相殿社「草相神、菅原道真、天満大神、春日大神、八幡大神、八百萬大神」、事平神社「事平大神」、稲荷神社がある。本殿の奥側には、宝永3（1706）年の4本宮がある。すなわち、第一本宮は、智（学問）があり、横と縦の比は、1.32倍である。第二本宮は、仁（真意）があり、横と縦の比は、1.34倍である。第三本宮は、礼（行動）があり、横と縦の比は、1.32倍である。第四本宮は、愛（思い心）があり、横と縦の比は、1.34倍である（写真3）。



第一本宮・智  
（学問・知恵）



第二本宮・仁  
（仁義・真実）



第三本宮・勇  
（行動）



第四本宮・愛  
（思い心・愛情）

### 写真3．野里住吉神社の社殿内の本宮

拝殿は、本殿の前にあり、参拝者が拝礼する建築物であり、横拝殿、縦拝殿、割拝殿に分けられる。一般に、昇殿参拝（しょうでんさんぱい）とは拝殿に昇って参拝するのである。現社殿は、昭和40（1965）年に創建され、本殿東側の壁と扉と本殿西側の壁と扉と本殿南側の壁と扉がある（写真4）。本殿内部には、一夜官女絵馬および宝船絵馬と、昭和40年年奉納の絵画が見られる。本殿東側の壁と扉は（昭和30（1955）年）の写真である。



本殿東側の壁と扉



本殿西側の壁と扉



本殿南側の壁と扉

#### 写真4. 野里住吉神社の社殿内の壁と扉

神石と御輿。神石は、現社殿の建設時に発見された(写真5)。御輿(みこし)とは、神幸の時に、神体または御霊代が乗るとされる輿である。依代(よりしろ)は、神霊が降臨する際に媒体となるもので、人・岩石・樹木等の種類がある。



神石と御輿



神石

#### 写真5. 野里住吉神社の社殿内部にある神石と御輿

### 3. 野里住吉神社末社の測量と解析

末社とは、本社に属する小さな神社、枝宮で、神社内に鎮座し、統括や管理に属する摂社である。野里住吉神社の末社は、6社である。すなわち、次のような高さである(写真6と7)。月頼(つきより)稲荷神社の高さ2.13m、②勝雄木(かつおぎ)稲荷神社の高さ1.90m、③天満(てんま)・春日(かすが)・八幡(はちまん)・八百万神(やおよろずのかみ)神社の高さ2.28m、④事平(ことひら)神社の高さ2.35m、⑤源次郎稲荷神社の高さ2.15m、⑥一夜官女の高さ2.49mである。末社の写真6は、月頼稲荷神社、勝雄木稲荷神社、天満・春日・八幡・八百万神神社である。末社の写真7は、事平神社・源次郎稲荷神社である。



大阪市西淀川区、野里住吉神社（1382年）の末社と石燈籠と鳥居（沢・西山・石田・北川）



月頼稲荷神社



勝雄木稲荷神社



天満・春日・八幡・  
八百万神社

#### 写真 6. 野里住吉神社の末社A



事平神社



源次郎稲荷神社

#### 写真 7. 野里住吉神社の末社B

ここでは、野里住吉神社の末社に関する測量と解析を行ったのが図1である。

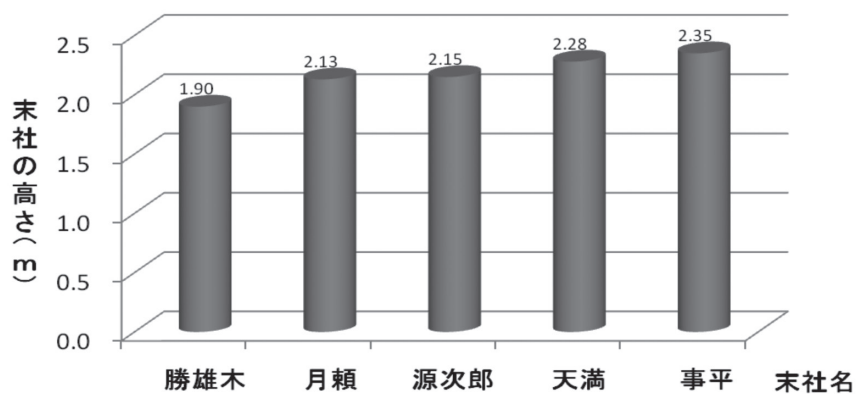


図1. 野里住吉神社の末社の高さ

末社の高さは勝雄木稲荷神社（1.90m）から事平神社（2.35m）の範囲であり、その平均値は2.16mである（図1）。

#### 4. 野里住吉神社石燈籠の測量と解析

石燈籠とは、神社の内部にある境内（末社）や参道に並ぶ燈籠で、灯を保護する籠火具である。籠火具の材料は、一般には石材で、金属製・木製・陶器・プラスチック等がある。置く場所は、地面とか釣灯籠である。境内（末社）内にある灯籠の名称を要約する。

- ① 宝珠（ほうじゅ）は、燈籠の名称で、笠の上にある燈籠の最上部である。
- ② 請花（うけばな）は、宝珠の下にある蓮華状の部分である。
- ③ 火袋（ひぶくろ）は、灯明を燈す部分で、ランプと同様にさまざまな形の火口形もある。火口には丸い窓や日月の形にくり抜いたものもある。
- ④ 火袋の屋根にあたる笠の形は、四角・六角・八角やドーム状などである。
- ⑤ 蕨手（わらびて）は、燈籠の名称で、笠と火袋の中間にあり、装飾文様が刻まれる。
- ⑥ 請台（うけだい）は、石燈籠の明かりを灯す台の下にある台座部分である。
- ⑦ 火袋を乗せる台竿の形状は、円柱や角柱、さらに2本・3本の足状で装飾文様がある。円柱の場合、上中下に帯状の飾りである節（ふし）を持つのが普通である。
- ⑧ 台座（だいざ）は、称竿（さお）を立てる受座（うけざ：台座）である。

石燈籠は、16基（左右にも実在する）設置されている。16基中の9基について特徴を要約する。

写真8Aの左から

- ① 正面鳥居の石燈籠は、10段の高さ3.39m、生魚乾物商有志中の寄贈により昭和8（1933）年に設置。
- ② 社務所南（馬像前）の石燈籠は、10段の高さ2.45m、文化6（1809）年に設置。
- ③ 社務所北手水舎横の石燈籠は、10段の高さ3.07m、北親睦会解散記念の寄贈により昭和13（1938）年に設置。
- ④ 月頼稲荷神社の石燈籠は、8段の高さ1.72m、高橋組の寄贈により大正2（1923）年に設置。

写真9Bの左から

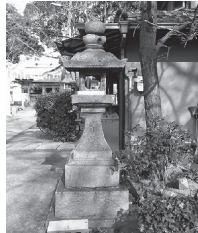
- ⑤ 太鼓橋の石燈籠は、10段の高さ2.17m、明治3（1870）年に設置。
- ⑥ 勝雄木稲荷神社の石燈籠は、8段の高さ2.27m、長兵衛・安右衛門氏の寄贈により昭和8（1933）年に設置。
- ⑦ 事平神社の石燈籠は、10段の高さ2.30m、長兵衛・寅之捨氏の寄贈により延享4（1747）年に設置。

大阪市西淀川区、野里住吉神社（1382年）の末社と石燈籠と鳥居（沢・西山・石田・北川）

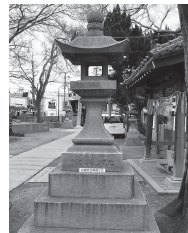
- ⑧ 本殿前の石燈籠は、8段の高さ2.77m、安永5（1776）年に設置。
- ⑨ 戎神社の石燈籠は、9段の高さ2.61m、昭和3（1928）年に設置した。



①正面鳥居  
高さ3.39m



②社務所南  
高さ2.60m



③社務所北  
高さ3.07m

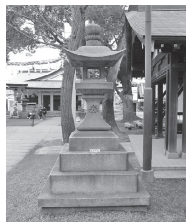


④月頼稲荷神社  
高さ1.72m

写真 8. 野里住吉神社の石燈籠A



⑤太鼓橋  
高さ2.17m



⑥勝雄木稲荷神社  
高さ2.27m



⑦事平神社  
高さ2.30m



⑧本殿前  
高さ2.27m



⑨戎神社  
高さ2.61m

写真 9. 野里住吉神社の石燈籠B

石燈籠の測量として、高さは1.72mから3.39mの範囲であり、その平均値は2.59mである（図2）。

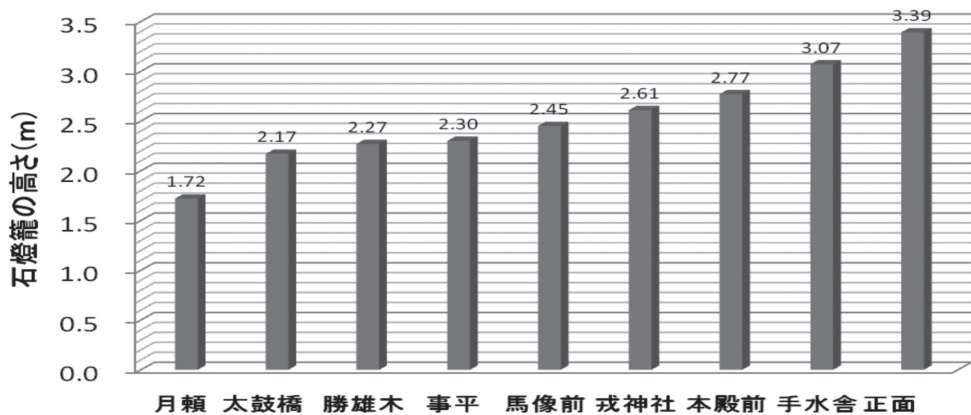


図 2. 野里住吉神社の石燈籠の高さ

野里住吉神社の石燈籠においてみると月頼稲荷神社前8段の高さ(1.72m)が最低値であり、正面鳥居10段の高さ(3.39m)が最高値である。図2で、石燈籠の建立年と高さの関係を考察すると、1700年代から1800年代では2基の石燈籠が1900年代になると5基の石燈籠が建立されていることが判明した。石燈籠の高さでみると、1.0m～2.0m間では1基の石燈籠、2.0m～2.5m間では3基の石燈籠、2.5mから3.0m間では2基の石燈籠、3.0m以上の石燈籠は2基であることが判明した。

## 5. 野里住吉神社鳥居の測量値と解析

### 5-1. 野里住吉神社鳥居の特徴

鳥居とは神霊として鳥を招く意味がある。構造は2本柱に2本横木(笠木と貫)から構成している。神明系と明神系の鳥居の区別は、笠木の下にある鳥木の無と有(装飾)の違い、さらに笠木の反りの有(神明系)と無(明神系)によるものである。明神系鳥居の貫には、出る(中山鳥居を除く)と出ない(中山鳥居)の区分がある。神明系鳥居の貫には、出る(鹿島鳥居を除く)と出ない(鹿島鳥居)の区分ができる。神明(しんめい)系鳥居には、次のような特徴がある。すなわち、鳥居の特徴を理解するため、次のような4項目を要約した。

- ①伊勢(いせ)・神明(しんめい)は、伊勢斎宮。笠木が鎬の五角形で屋根への発展を示す。両端は下方に向かって斜め。貫は貫通せず、楔で固定。柱の円柱は転び(傾斜)がない。
- ②鹿島(かしま)鳥居は、貫が四角、柱が出る。貫の特徴は柱の外に張る。
- ③黒木(くろき)・素木(しらき)は、皮付き丸太をそのまま使用した円柱二本が垂直で、上部に円柱形の笠木を載せる。貫は円柱を載せ、柱を傾斜させない特徴がある。
- ④靖国(やすくに)は、2本の垂直な丸柱、上部に丸型の笠木が乗り、貫が四角(断面長方形)の角材であるのが特徴。額束や楔などない質素な構成である。

モデル化した別表4は、鳥居の系列構造の系統図であり、別表5は、神明系と明神系鳥居の区分図であり、別表6は、神明系と神明系鳥居の系統図であり、別表7は、笠木上の反り増し系統図であり、別表8は、神明と明神系鳥居の系統図探検である。別表8の該当するところをクリックによって、神明系鳥居と明神系鳥居の系列が見分けられる手法である。明神(みょうじん)系鳥居には、次のような8項目を要約した。

- ①稲荷(いなり)・台輪(だいわ)は、鳥木の下に構造的補強した大輪形である。柱の上部、鳥木と接する箇所に台輪があるのが特徴で、台輪鳥居と呼ぶ。楔もある。
- ②春日(かすが)は、鳥木の上にある笠木の端が垂直であり、貫中央に額束があり、柱には傾斜がある。
- ③春日大社。山王(さんのう)は、笠木の上に破風型をした合掌の形状である。合掌は神仏習合を表現する特徴をした破風鳥居・総合鳥居である。

- ④住吉（すみよし）・中山（なかやま）は、柱が四角（角柱）になっている特徴があり、大阪・住吉大社の神門前の鳥居が有名である。
- ⑤八幡（はちまん）は、笠木端が斜めで、鳥居笠木の両端を斜めに切り落した特徴があり、春日鳥居とよく似た形の楔がある。
- ⑥明神（みょうじん）は、最も普通の鳥居で、笠木と島木に反り、笠木・島木の両端は斜め、柱根元には亀腹があるのが特徴である。
- ⑦三輪（みわ）は、扉の有無関係なく三輪の鳥居、横の脇鳥にある鳥居が付属、大鳥居の左右に小型の鳥居を付けた特徴を有している。
- ⑧両部（りょうぶ）は、両部に神道の理念を表した柱に袖柱が付属しているのが特徴で、後に控柱（稚児柱）を設けている。

野里住吉神社の鳥居は5基である。すなわち、次のような特徴と建立時と寄贈者を列举する。

- ①正面大鳥居の鳥居構造は明神系鳥居である。柱の直径は0.52m、柱内側幅4.45m、高さ（笠木上点6.27、頂点6.59m）。柱の角度（左83°と右84°）。高さは西淀川区内上位である。生魚乾物商有志中の寄贈により大正12（1923）年建立した。
- ②月頼稻荷神社の鳥居構造は明神系鳥居である。柱の直径は0.17m、柱内側幅1.58m、高さ（笠木上点2.45、頂点2.50m）。屋根は平入様式（神明造）である。柱の角度（左89°と右88°）。大正2（1913）年に建立した。
- ③天満・春日・八幡・八百万神社の構鳥居造は神明系鳥居である。柱の直径は0.20m、柱内側幅1.42m、高さ（笠木上点2.13、頂点2.17m）。柱の角度（左89°と右88°）。西邨松之助・久太郎氏の寄贈である。
- ④淀川戎神社の鳥居構造は神明系鳥居である。柱の直径は0.29m、柱内側幅2.73m、高さ（笠木上点3.34、頂点3.34m）。屋根は平入様式（神明造）。柱の角度（左89°と右88°）。竹澤松太郎氏により昭和11（1936）年に建立したのである。
- ⑤東門の鳥居構造は明神系鳥居である。柱の直径は0.40m、柱内側幅3.05m、高さ（笠木上点4.47、頂点4.78m）。元文2（1738）年の建立である。柱の角度（左84°と右85°）。

## 5-2. 野里住吉神社鳥居の名称解説

鳥居における各部の名称は、上層部から反り増し、笠木（かさぎ）、島木（しまぎ）、台輪（だいわ）、楔（くさび）、額束（がくづか）、貫（ぬき）、根巻・藁座、亀腹（かめはら）・饅頭の9部分と、これらを支える両側に柱がある。この6部分の名称を要約する。反り増しは、笠木の上に置く部材で、門の遺風が進化した風格の象徴である。

笠木は、鳥居の最上部にあたる部分である。島木は、笠木と水平材とする場合に上層の笠木に接して島木を渡す笠木の下に入れる部材である。台輪は、柱の上部にある丸い材である。楔



は、貫を補強する部材である。額束は貫の上にある短柱で、名称を入れる。貫は建物などの柱と柱を横に貫いてつなぐ部材である。根巻・藁座は柱の根を包んだ部材である。

亀腹・饅頭は基礎や鳥居の柱下、多宝塔の上下層間に、白漆喰などを固めた饅頭の部分である。柱の根元を丸く支える部分である。柱には直径と半径を計測する必要がある。この直径は、鳥居の高さや幅を建立するに当たって一定な比例係数が存在している。野里住吉神社の神明系と明神系の中に、正面鳥居、戎神社鳥居系、稲荷神社鳥居系、金毘羅神社鳥居系分類と各門鳥居やその他鳥居系からなっていることが判明した。

### 5-3. 野里住吉神社鳥居の計測結果と解析

表1は、野里住吉神社にある鳥居の測量値である。神社の鳥居に対して、柱直径（円周から直径を計算する手法と測定値からの直径の2つの手法を行った）、柱間幅（内側間と中心間を測量した）、横棒の高さ（貫下点はE、貫上点はF、笠木下点はG、笠木上点はH）をそれぞれ区分した計測データを表示している。外山靖彦（2008）によると貫下値は、直径の9.1倍になっている。Mは（A/円周率）である。このAは円周値である。Bは測量の直径である。円周から計算し直径MとBから求めた高さの比較を行った。

表1. 野里住吉神社鳥居の測量値（m）と傾斜角度（°）

鳥居名	柱断面		柱間の幅		貫の高さ		笠木の高さ		柱傾斜角度	
	円周	直径	内側間	中心間	下点(n)	上点	下点	上点(k)	左側	右側
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
正面大鳥居	1.80	0.52	4.45	5.11	4.74	5.15	6.02	6.27	83	84
月頼稲荷神社	0.47	0.17	1.58	1.72	1.91	2.05	2.38	2.45	89	88
天満・春日・八幡・ 八百萬神社	0.59	0.20	1.42	1.60	1.60	1.75	1.97	2.13	89	88
淀川戎神社正面	0.96	0.28	2.73	3.04	2.52	2.73	3.06	3.34	89	88
東門鳥居	1.27	0.40	3.05	3.48	3.35	3.68	4.28	4.47	84	85
最大値	1.80	0.52	4.45	5.11	4.74	5.15	6.02	6.27	89	88
平均値	1.02	0.31	2.64	2.99	2.82	3.07	3.54	3.73	87	87
最小値	0.47	0.17	1.42	1.60	1.60	1.75	1.97	2.13	83	84

図3は、野里住吉神社に見られる鳥居の柱内側の幅と貫下の高さ（推定9.1）測量値である。これらの値について、鳥居の柱内側の幅と貫下の高さとの関係を究明するため、測量値（E）と計算値をプロットした。プロットした図3の系列◆表示は、柱内側の幅と貫下の高さの関係図は、測量値（E）の実線である直線方程式1である。同様に系列■表示は、円周から計算した直径（9.1M）を表示する破線の直線方程式2である。さらに、系列△表示は、測定直径（9.1B）を表示する点線の直線方程式3である。

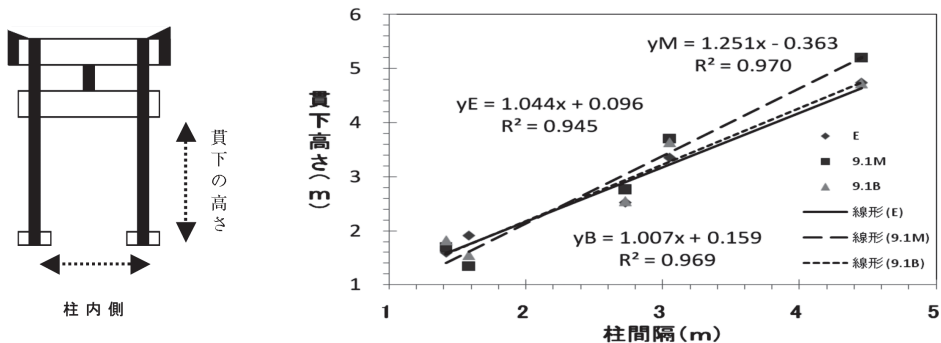


図 3. 柱内側の幅と貫下の高さ（推定9.1）

柱内側の幅と貫下の高さ（測量値と推定9.1B、9.1Mおよび）の関係から回帰方程式として与えられ、勾配が求められた。

$$YE \text{ (貫下高さ)} = 1.251 \text{ (柱内側の幅)} - 0.363 \cdots (R^2=0.970) \cdots \text{測量値 (E)} \cdots \cdots (1)$$

$$YM \text{ (貫下高さ)} = 1.044 \text{ (柱内側の幅)} + 0.097 \cdots (R^2=0.945) \cdots 9.1M \text{推定} \cdots \cdots (2)$$

$$YB \text{ (貫下高さ)} = 1.007 \text{ (柱内側の幅)} - 0.159 \cdots (R^2=0.969) \cdots 9.1B \text{推定} \cdots \cdots (3)$$

ここで、式1、式2及び式3の決定係数 ( $R^2$ ) は、それぞれ0.970、0.945および0.969であることが算出された。決定係数 ( $R^2$ ) について、実測した式1の決定係数は、式3と同じく、式4より大きい値である。式1、式2及び式3の勾配は、それぞれ1.251、1.044および1.007である。貫下の高さについて、実測した式1の勾配 (1.251) は、式2と式3より大きい値である。神社における鳥居の3系列を含む貫下の高さについて、柱内側の幅が大きくなるにつれ、貫下の高さも大きくなる傾向がある。式1は、式2と式3と共に柱間幅 (m) と貫下高さ (m) の関係を確認できた。

外山靖彦 (2008) によると笠木上の高さは、直径の11.8倍になっている。ここで、推定値の直径の11.8倍は、貫幅0.8、貫と笠木間幅1.3および笠木幅0.6の和である。MはA/円周率) である。このAは円周値である。Bは測量直径である。円周から計算し直径MとBから求めた高さの比較を行った。図4は、大阪市西淀川区、野里住吉神社に見られる鳥居の柱間幅と笠木上高さ (推定9.5) 測量値である。これらの値について、鳥居柱内側の幅と笠木上高さとの関係を究明するため、測量値をプロットした。

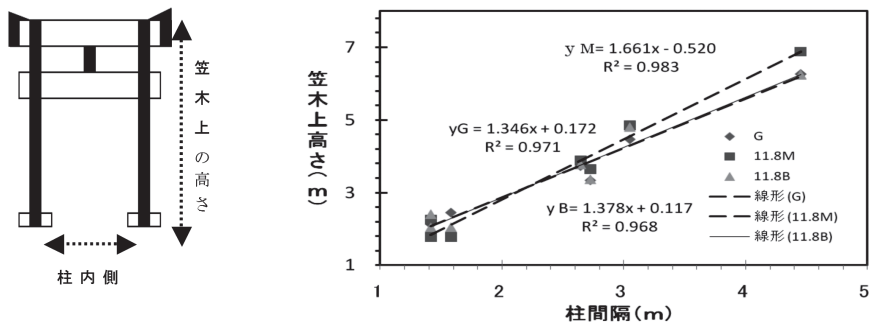


図4. 柱内側の幅と笠木上高さ（推定11.8）

プロットした図4の系列◆表示は、柱間幅と笠木上高さの関係図は、測量値（G）の実線である直線方程式4である。同様に系列■表示は、円周から計算した直径（11.8M）を表示する破線の直線方程式5である。さらに、系列△表示は、測定直径（11.8B）を表示する点線の直線方程式6である。

$$YG \text{ (笠木上高さ)} = 1.346 \text{ (柱内側の幅)} + 0.172 \cdots (R^2=0.971) \cdots \text{測量値(G)} \cdots \cdots (4)$$

$$YM \text{ (笠木上高さ)} = 1.661 \text{ (柱内側の幅)} - 0.520 \cdots (R^2=0.983) \cdots 11.8M \text{推定} \cdots \cdots (5)$$

$$YB \text{ (笠木上高さ)} = 1.378 \text{ (柱内側の幅)} + 0.117 \cdots (R^2=0.968) \cdots 11.8B \text{推定} \cdots \cdots (6)$$

ここで、式4、式5及び式6の決定係数（ $R^2$ ）は、それぞれ0.971、0.983および0.968であることが算出された。決定係数（ $R^2$ ）について、実測した式4の決定係数は、式5より式6の方が近い値である。式6は、3系列の中で平均値よりやや小さい決定係数である。式4、式5及び式6の勾配は、それぞれ1.346、1.661、および1.378である。笠木頂点の高さについて、実測の式4である勾配（1.346）は、式5と式6より小さい勾配値である。神社における鳥居の3系列を含む笠木頂点の高さについて、柱内側の幅が大きくなるにつれ、笠木頂点の高さも大きくなる傾向である。したがって、式4、式5および式6によって、柱内側の幅（m）と貫下の高さ（m）の関係を確認された。

#### 5-4. 野里住吉神社鳥居の計測結果と解析

野里住吉神社鳥居の構造観察を行った。次のように要約できる。

- ①反り増しの有は、東門、正面、淀川戎、天満・春日・八幡・八百萬神、月頼稲荷である。
- ②笠木の有は、東門、正面、淀川戎、天満・春日・八幡・八百萬神、月頼稲荷である。

大阪市西淀川区、野里住吉神社（1382年）の末社と石燈籠と鳥居（沢・西山・石田・北川）

- ③鳥木の角型曲線の有は、東門、正面、月頼稲荷で、無は淀川戎、天満・春日・八幡・八百萬神である。
- ④台輪は、無である。
- ⑤楔の有は、東門、正面、月頼稲荷であり、無は淀川戎、天満・春日・八幡・八百萬神である。
- ⑥額束の有は、東門、正面、月頼稲荷であり、無は淀川戎、天満・春日・八幡・八百萬神である。
- ⑦貫の四角・外側は、東門、正面、月頼稲荷であり、四角・内側は淀川戎、天満・春日・八幡・八百萬神である。
- ⑧根巻・藁座の有は、月頼稲荷であり、無は東門、正面、淀川戎、天満・春日・八幡・八百萬神である。
- ⑨亀腹・饅頭の有は、東門、正面、淀川戎、月頼稲荷であり、無は天満・春日・八幡・八百萬神である。

次に、構造と観察から本鳥居と他鳥居のとの類似点を考察した。すなわち、東門鳥居は、明神系明神鳥居、神田神社と類似。正面大鳥居は、明神系明神鳥居。神田神社と類似した淀川戎鳥居は、神明系靖国鳥居。靖国神社と類似。天満・春日・八幡・八百萬神鳥居は、神明系伊勢神明鳥居。伊勢内外神宮・熱田神宮（伊勢鳥居）と類似。月頼稲荷鳥居は、明神系明神鳥居。神田神社と類似が見られた。

#### 5-5. 野里住吉神社鳥居の模型製作

写真10は、大阪市西淀川区、野里住吉神社にある鳥居の測量値から20分の1に縮小にした模型製作品である。この製作品は、神社内の鳥居の高さを比較するために配列した。



正面大鳥居      東門鳥居      淀川戎神社鳥居      月頼稲荷神社鳥居      天満・春日・八幡・八百萬神社の鳥居

写真10. 鳥居実測の20分の1で製作した鳥居模型

写真10の左から順に、正面大鳥居、東門鳥居、淀川戎神社鳥居、月頼稲荷神社鳥居および天満・春日・八幡・八百萬神神社鳥居である。それぞれの高さ・幅が順に小さくことが理解できる。

## 6. 淀川戎神社の社殿と戎さん

### 6-1. 淀川戎神社の社殿

淀川戎神社（よどがわえびすじんじゃ）は、平入様式で、（本殿と拝殿）の有・無のいずれでは、千木（有）・鯉木（5本:男神を祀る）・切妻造り（有）・妻入り（無）・妻入屋根（無）・平入り（有）・反り増し（無）に区分できる。神明造りの流れを組むものである。本殿と拝殿は2室で、前後二棟が並び、千木はV字タイプ、鬼板、ひれ、拝み打ちがある。千木の先端は斜面に切断している。ゆえに、神明造・伊勢神宮と同様である。

写真11は、野里住吉神社の淀川戎神社の社殿である。写真は、左から淀川戎神社の本殿と記念碑、淀川戎神社の本殿、淀川戎神社の側面および、淀川戎神社の本殿内部である。



淀川戎神社の本殿と記念碑



淀川戎神社の本殿



淀川戎神社の側面



淀川戎神社の本殿内部

写真11. 淀川戎神社の社殿

### 6-2. 淀川戎神社の戎さん

大阪港は長い間安治川河口だけであったのが、現在は淀川河口南岸から 大和川河口北岸までを港域として発展している。その流域に野里住吉神社の淀川戎神社がある。淀川戎神社では、十日戎（1月9日～11日）が行なわれている。写真12のように、社殿内では、淀川戎神社の樂人や巫女が舞いを行い、参拝客の笹に鈴を鳴らす儀式がある。さらに、社殿周辺では、福娘が、笹を授与。松明を報じる祭がある。



淀川戎神社の樂人



淀川戎神社の巫女



淀川戎神社の松明と祭



淀川戎神社の福娘

写真12. 淀川戎神社の戎さん



## 7. 野里住吉神社の環境

### 7-1. 野里住吉神社の神木と樹木

注連縄（しめなわ）は、神の聖域と一般の場所を区別するために、神前や神事の場にめぐらした縄のことである。天岩戸神話で天照大御神が再び入れないように岩戸を注連縄で締めたのが始まりとされている。紙垂・四垂（しで）とは、注連縄や玉串などにつけ、和紙でできている雷を象り、神威を表現しているといわれる。標縄（しめなわ）は、神前や神事の場に不浄を防ぐ印として張る縄である。標柱（しめはしら）は、鳥居にある二本の柱にしめ縄を張る意味である。聖域（せいいき）は、神聖でおかしてはならないとされる区域である。神木は、次のような特徴が見られた（写真13と写真14）。まず、台風や震災によって多くの被害が見られたことで、防風・防火を兼ねている点である。

①しめ縄架け柱と境内神木（楠）が共存している。②境内神木（楠）の前に飾られている御神籤（くじ）、③社務所の横にあり、大空に聳え立つ境内神木（楠）で、傾斜角度は75°、④正門付近の傾斜木（カイズカイブキ）で、傾斜角度（左58と右52°）周辺木は54と63°、⑤事平神社北側の傾斜木（樺：ケヤキ）傾斜角度（左73と右78°）、⑥源次郎稲荷神社北側の傾斜木（秋楡）傾斜角度（左73と右78°）、⑦淀川戎神社東側の傾斜木（秋楡）傾斜角度（左36と右47°）、⑧手水舎西側、台風と神木（秋楡）によって切断された玉垣。玉垣は木の中に食い込まれ、⑨天満・春日・八幡・八百萬神神社南側にある玉垣。人身によって切断された玉垣の上部、⑩手水車北側にある傾斜木（秋楡）。傾斜角度（左10と右60°）、⑪手水車北側にある傾斜木（秋楡）。傾斜角度（87°：三日月形）、⑫手水車横側にある傾斜木（秋楡）。傾斜角度（左35と右90°）、⑬手水車横側にある傾斜木（秋楡）は、碑石に支え。傾斜角度（左35と右90°）、⑭勝雄木稲荷神社北側にある傾斜木（秋楡）。傾斜角度（左5と中央50と右50°）、⑮勝雄木稲荷神社北側にある傾斜木（秋楡）。玉垣間の鉄棒によって支えられている。傾斜角度（左68と右70°）である。



神木（楠）の前の  
御神籤

しめ縄架け柱と神木  
（楠）

正門付近の傾斜木

淀川戎神社東側の傾斜木

写真13. 大阪市西淀川区、野里住吉神社の神木と樹木

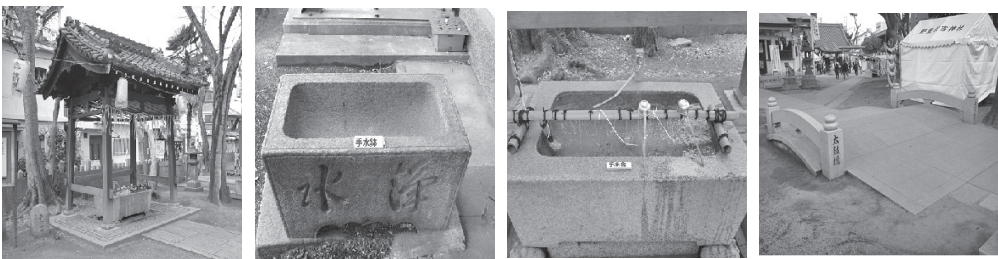


手水車北側にある傾斜木 勝雄木稲荷神社北側の木 事平神社北の傾斜木(樺) 手水車横側にある傾斜木

#### 写真14. 野里住吉神社の樹木

##### 7-2. 野里住吉神社の手水舎 と太鼓橋

御手洗（みたらい）とは、境内にある手水を取る（心身を清める）ための場所で、上古には清流などで心身を清め、禊をしてから参拝をしていた。手水舎（てみずや）とは、手を清め口をゆすぐための建物であり、参道脇にある。本神社には、次のような事が列挙できる。1933年、手水舎の建物は（高さ3.00m×横4.00m×奥3.00m）であり、水槽の規模は高さ0.5m×横1.55m×奥0.99mである。手水鉢（不明）の規模は、高さ0.5m×横1.04m×奥0.58mである。1962年、太鼓橋の規模は長さ3.6m、幅5.16mである（写真15）。



手水舎は雨水対策 手水鉢は手と口を浄める 手水舎の手水槽の構造 三日月状に反った太鼓橋

#### 写真15. 野里住吉神社の手水社と太鼓橋

##### 7-3. 野里住吉神社の玉垣

玉垣（たまがき）は、神域と俗界とを隔てた垣である。伊勢神宮など社格の高い神社では、神職と一緒になければ入ることができない。皇室や神社の周辺に設けている。本神社には、次のような事が列挙できる。1920年、堤下茂兵衛氏寄贈、高さ0.55m×横0.76m。神社東側の外壁、堤下茂兵衛氏寄贈である。1925年、神社西側の壁、六楽内徳治郎氏寄贈である。1928年 御大典記念、玉垣世話人寄贈、高さ1.40m。1963年、石食う木・玉垣切木、玉垣間は0.56m。その間にある切断玉垣（高さ0.35m、横0.16m×幅0.16m）である（写真16）。

大阪市西淀川区、野里住吉神社（1382年）の末社と石燈籠と鳥居（沢・西山・石田・北川）



神社東側の外壁



台風により玉垣を切断した木



神社西側の外壁



堤下茂兵衛氏の記念碑

写真16. 野里住吉神社の玉垣と記念碑

## 8. おわりに

大阪市西淀川区、野里住吉神社の由来の結果を次のようにまとめられる。また、本神社と末社との関係、とくに石燈籠と鳥居の相関関係を綿密な測量と解析によって明らかにした。さらに、鳥居の詳細な測量値に基づいて模型製作を行なった。つぎのように要約できる。

### 1. 末社の測量と解析

野里住吉神社の末社は5社で、月頼稻荷神社、勝雄木稻荷神社、天満春日・八幡・八百萬神社・事平神社・源次郎稻荷神社の順に高くなる傾向を確認できた。

### 2. 石燈籠の測量考察

野里住吉神社にある石燈籠は、16基を設置している。石燈籠の高さは、月頼稻荷神社、太鼓橋、勝雄木稻荷神社、事平神社、社務所南、戎神社、本殿前、社務所北、正面鳥居の順に高くなっている。

### 3. 鳥居の構造観察

構造と観察から本神社の鳥居と他鳥居のとの類似点を考察した。すなわち、東門の鳥居は、明神系明神鳥居。神田神社と類似。正面の鳥居は、明神系明神鳥居。神田神社と類似した淀川戎の鳥居は、神明系靖国鳥居。靖国神社と類似。天満・春日・八幡・八百萬神の鳥居は、神明系伊勢神明鳥居。伊勢内外神宮・熱田神宮（伊勢鳥居）と類似。月頼稻荷の鳥居は、明神系明神鳥居。神田神社と類似が見られた。

### 4. 鳥居計測の結果

柱内側の幅と貫中央の高さ（推定9.1）の実測値は、円周から計算した直径よりも実測した直径がより近い値である。柱内側の幅と笠木頂点の高さ（推定11.8）の実測値は、円周から計算した直径よりも実測した直径がより近い値である。これは、図の解析や回帰式および決定係数（ $R^2$ ）からも明白に理解できる。

## 5. 鳥居模型作品

鳥居実測の20分の1で、左から正面、東門、淀川戎神社、月頼稻荷神社および天満・春日・八幡・八百萬神神社の鳥居の順に並べると区別できる。

## 謝 辞

神社の調査時には、大阪市西淀川区、野里住吉神社の鎌田義昭宮司にご了解を頂きました。本論文作成にあたっては、資料提供のご協力を頂きました大阪市西淀川区役所と大阪府神社庁と大神神社の関係各位に感謝申し上げます。測量・撮影・情報分析には、大阪経済法科大学の上野裕講師、地元の吉村明信・西谷真志およびNPO洞窟環境NET学会の肥塚義明事務局長・藤田浩史相談役の各氏に厚く御礼申し上げます。

(2010年12月1日受稿、2010年12月25日掲載決定)

## 参考文献

- 1) 創立60周年事業委員会：『野里 わたしたちの学校と町』、大阪市立野里小学校創立60周年記念誌、1980年
- 2) 池永悦治：『野里誌』、山治弥生会、1989年
- 3) 駕洛慶尚南留道宗親会：『駕洛国—500年歴史と文化』駕洛中央宗親会、1991年
- 4) 金榮俊：『画報から見る駕洛国の歴史と文化』、駕洛中央宗親会、1995年
- 5) 大阪都市協会編：『西淀川今昔写真集—西淀川区制70周年記念』、西淀川区制70周年記念事業実行委員会、1995年
- 6) 大阪都市協会編：『西淀川区史』、西淀川区制70周年記念事業実行委員会、1996年
- 7) 外山晴彦・サライ編集部：『神社の見方』、小学館 第五刷、2005年
- 8) 正木晃・中尾伊早子監修：『よくわかる! 神社 神宮』、PHP研究所、2007年
- 9) 梨本敬法他：『これだけは知っておきたい神社入門』、洋泉社、2007年
- 10) 根岸榮隆：『鳥居の研究』、第一書房、2007年
- 11) 黒田一充・編集：『神社を中心とする村落生活調査報告書 1 大阪府（なにわ・大阪文化遺産学叢書3）』、関西大学、2007年
- 12) 野里まちづくりを推進する会 事務局編集部：『のざと』、野里まちづくりを推進する会、2007年
- 13) 井上順孝：『図解雑学! 神道』、ナツメ 第五刷、2008年
- 14) 外山晴彦：『神社のことがよくわかる本』、東京書籍、2008年
- 15) 渋谷伸博：『日本の神社』、日本文芸社、2008年
- 16) 大阪市立野里小学校創立90周年事業委員会：『創立九十周年記念誌 野里』、大阪市立野里小学校・PTA・創立90周年事業委員会、2009年
- 17) 洞窟環境NET学会編集部：『野里住吉神社の環境写真』、洞窟環境NET学会紀要、2010年
- 18) 山形明郷：『卑弥呼の正体』、三五館、2010年
- 20) 洞窟環境NET学会：『大阪市西淀川区の神社研究』<http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html>、2010年
- 21) 沢 勲・西山正明・石田信也・北川和孝：『大阪市西淀川区、野里住吉神社（1382年）の末社と石燈籠と鳥居』、大阪経済法科大学地域総合研究所紀要、3号、2011年
- 22) 沢 勲・上野裕・西山正明：『大阪市西淀川区、田蓑神社の由来と鳥居』、洞窟環境NET学会紀要、2号、2011年
- 23) 沢 勲・石田信也・朴永晃：『大阪市西淀川区、姫嶋神社の由来と鳥居』、洞窟環境NET学会紀要、2号、2010年
- 24) 沢 勲・富田和広・北川和孝：『大阪市西淀川区、大和田住吉神社の由来と鳥居』、洞窟環境NET学会紀要、2号、2010年

大阪市西淀川区、野里住吉神社（1382年）の末社と石燈籠と鳥居（沢・西山・石田・北川）

- 25) 沢 勲・西山正明・金世徳：「大阪市西淀川区、福住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境NET学会紀要、2号、2010年
- 26) 沢 勲・富田和広・肥塚義明：「大阪市西淀川区、鼻川神社の由来と鳥居」、洞窟環境NET学会紀要、2号、2010年
- 27) 沢 勲・上野裕・西山正明：「大阪市西淀川区、五社神社の由来と鳥居」、洞窟環境NET学会紀要、2号、2010年
- 28) 沢 勲・石田信也・朴永晙：「大阪市西淀川区、大野百鳥住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境NET学会紀要、2号、2010年



別表1. 社殿の建築様式の系統図

社殿の建築様式の系統図

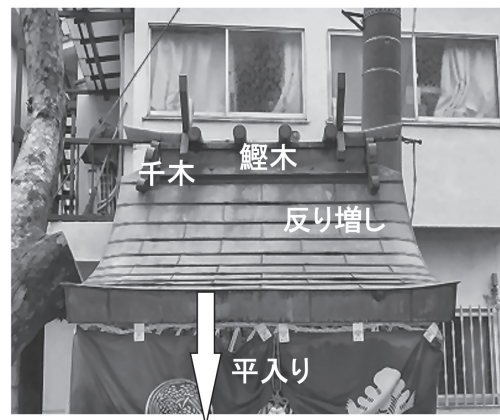
屋根部分	千木		有	妻入様式		大社造	春日造	住吉造
				平入様式		神明造	流れ造	
			無	平入様式				八幡造
	勝雄木		有	妻入様式		3本大社造	4本春日造	5本住吉造
				平入様式		5本神明造	5本流れ造	
			無					八幡造
	切妻造り		有	妻入様式		大社造	春日造	住吉造
			有	平入様式		神明造	流れ造	八幡造
	反り増し		有	妻入様式		大社造	春日造	
				平入様式			流れ造	八幡造
			無	妻入様式				住吉造
			無	平入様式		神明造		
	壁部分	妻入り		有	妻入様式		大社造	春日造
			無	平入様式		神明造	流れ造	八幡造
妻入屋根			有	妻入様式		大社造	春日造	
				妻入様式				住吉造
			無	平入様式		神明造	流れ造	八幡造
平入り			有	妻入様式		大社造	春日造	住吉造
			無	平入様式		神明造	流れ造	八幡造

別表 2. 建築様式と野里住吉神社との関係

神社本殿名			千木	勝雄木	切妻造り	妻入り	妻入屋根	平入り	反り増し	形式神社
		女神	内向き	偶数 (2,4・)	への字形 屋根	棟と垂直 な壁にある 出入口	棟と垂直 な壁にある 出入口 上屋根	棟と平行 な壁に出 入口	曲線状の 屋根	
		男神	外向き	奇数 (1,3・)						
妻入様式	1	大社造 (たいしゃづくり)	有	3本	有	有	有	無	有	出雲大社
	2	春日造 (かすがづくり)	有	2・4本	有	有	有	無	有	春日大社・白山大社・平野神社
	3	住吉造 (すみよしづくり)	有	5本	有	有	無	無	無	住吉大社
平入様式	1	神明造 (しんめいづくり)	有	5本	有	無	無	有	無	伊勢神宮
	2	流れ造 (ながれづくり)	有	5本	有	無	無	有	有	賀茂神社・伏見稲荷神社・
	3	八幡造 (はちまんづくり)	無	無	有	無	無	有	有	宇佐神宮・石清水八幡宮
野里住吉神社	1	住吉神社本殿	有	5本	有	無	無	有	有	神明造・伊勢神宮
	2	淀川戎神社本殿	有	5本	有	無	無	有	無	神明造・伊勢神宮
	3	月頼稲荷神社	有	4本	有	無	無	有	有	賀茂神社・伏見稲荷神社・

別表3. 社殿の建築様式の系統図探検

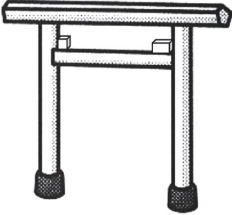
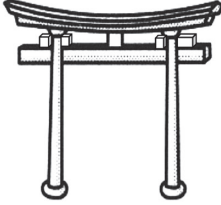
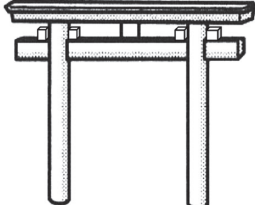
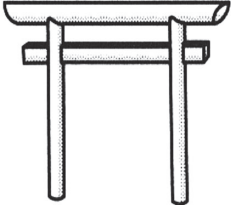


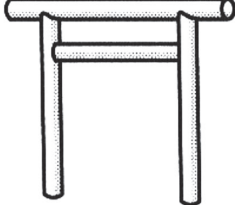
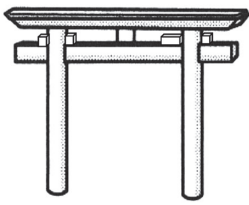
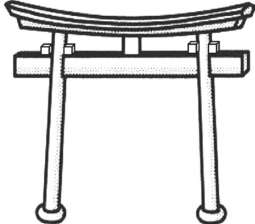
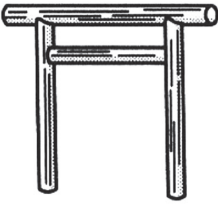
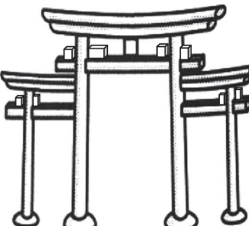

神社本殿名		千木	鯉木	反り増し	妻入り	妻入屋根	平入り	形式神社	
	女神	内向き	偶数 (2,4・)	曲線状の 屋根	棟と垂直 な壁にあ る出入口	棟と垂直 な壁にあ る出入口 上屋根	棟と平行 な壁に出 入口		
	男神	外向き	奇数 (1,3・)						
妻入様式	1	大社造 (たいしゃづくり)	有	3本	有	有	有	無	出雲大社
	2	春日造 (かすがづくり)	有	2・4本	有	有	有	無	春日大社・白山大社・平野神社
	3	住吉造 (すみよしづくり)	有	5本	無	有	無	無	住吉大社
平入様式	4	神明造 (しんめいづくり)	有	5本	無	無	無	有	伊勢神宮
	5	流れ造 (ながれづくり)	有	5本	有	無	無	有	賀茂神社・伏見稲荷神社
	6	八幡造 (はちまんづくり)	無	無	有	無	無	有	宇佐神宮・石清水八幡宮
神社本殿名		千木	鯉木	反り増し	妻入り	妻入屋根	平入り	形式神社	
当て方		有	有	有	有	有	有		
		無	無	無	無	無	無		



別表4. 鳥居の系列構造の系統図

鳥居名			柱	反り増し	笠木	島木	台輪	楔	額束	貫	根巻・藻座	亀腹・饅頭	構造	類似鳥居
			はしら	そりまし	かさぎ	しまぎ	だいわ	くさぎ	かくづか	ぬき	ねまき	かめぼら		
神明系鳥居	1	伊勢・神明	丸柱・垂直	無	丸型直線	無	無	有	無	丸型内側	有	有	シンプル	伊勢内外神宮・熱田神宮（伊勢鳥居）
	2	鹿島	丸柱・垂直	無	丸型直線	無	無	無	無	角型外側	無	無	笠木・貫の両端は垂直切断	鹿島神宮
	3	黒木・素木	丸柱・垂直	無	丸型直線	無	無	無	無	丸型内側	無	無	シンプル	伊勢斎宮・野宮斎院
	4	靖国	丸柱・垂直	無	角型直線	無	無	無	無	角型内側	無	無	シンプル	神明鳥居
明神系鳥居（上部には有色・装飾）	1	稲荷・台輪	丸柱・内傾斜	有	角型曲線	角型曲線	有	有	有	角型外側	無	有	笠木・島木は斜め切断	伏見稲荷大社（台輪鳥居）
	2	春日	丸柱・内傾斜	有	角型曲線	角型曲線	無	有	有	角型外側	無	有	笠木・貫は垂直切断	春日大社
	3	山王	丸柱・垂直	有	角型曲線	角型曲線	有	有	有	角型外側	有	無	破風状の合掌が最上部	日吉大社・破風鳥居・総合鳥居
	4	中山・住吉	角柱・垂直	有	角型曲線	角型曲線	無	無	有	角型内側	無	無	四角柱	明神鳥居・住吉神社
	5	八幡	丸柱・垂直	有	角型曲線	角型曲線	無	有	有	角型外側	無	無	笠木・島木は斜め切断	石清水八幡宮
	6	明神	丸柱・内傾斜	有	角型曲線	角型曲線	無	有	有	角型外側	無	有	笠木・島木は斜め切断	神田神社
	7	三輪	丸柱・4本柱	有	角型曲線	角型曲線	無	有	有	角型外側	無	有	脇に鳥居・左右に腹柱	大神神社・三光鳥居
	8	両部・杵差	丸柱・6本柱	有	角型曲線	角型曲線	有	有	有	角型外側	無	有	笠木・島木は斜め切断	厳島神社・気比神社

別表5. 神明系と明神系鳥居の区分図

神明（しんめい）系鳥居	明神（みょうじん）系鳥居	
		
<p>伊勢（いせ）・神明（しんめい）：伊勢斎宮。笠木が鑊の五角形で屋根への発展を示す。両端は下方に向かって斜め。貫は貫通せず、楔で固定。柱の円柱は転び（傾斜）がない。</p>	<p>稲荷（いなり）：台輪（だいわ）：鳥木の下に構造的補強した大輪形。柱の上部、鳥木と接する箇所に台輪がある特徴。台輪鳥居と呼ぶ。楔あり。</p>	<p>春日（かすが）：鳥木の上にある笠木の端が垂直。貫中央に額東がある。柱には傾斜ある。春日大社。</p>
		
<p>鹿島（かしま）鳥居：貫が四角、柱が出る。貫の特徴は柱の外に張る。</p>	<p>鹿島（かしま）鳥居：貫が四角、柱が出る。貫の特徴は柱の外に張る。</p>	<p>住吉（すみよし・中山（なかやま））：柱が四角（角柱）になっている特徴。大阪・住吉大社の神門前の鳥居が有名。</p>
		
<p>黒木（くろき）素木（しらき）：皮付き丸太をそのまま使用した円柱二本が垂直で、上部に円柱形の笠木を載せる。貫は円柱を載せ、柱を傾斜させない特徴。</p>	<p>八幡（はちまん）：笠木端が斜め。鳥居笠木の両端を斜めに切り落した特徴。春日鳥居とよく似た形。楔あり。</p>	<p>明神（みょうじん）：最も普通の鳥居。笠木と鳥木に反り。笠木・鳥木の両端は斜め。柱根元には亀腹がある特徴。</p>
		
<p>靖国（やすくに）：2本の垂直な丸柱、上部に丸型の笠木が乗り、貫が四角（断面長方形）の角材である特徴。額東や楔などない質素な構成。</p>	<p>三輪（みわ）：扉の有無関係なく三輪の鳥居。横の脇鳥にある鳥居が付属。大鳥居の左右に小型の鳥居を付けた特徴。</p>	<p>両部（りょうぶ）：両部に神道の理念を表した柱に袖柱が付属している特徴。後に控柱（稚児柱）を設けている。</p>

靖国（やすくに）：2本の垂直な丸柱、上部に丸型の笠木が乗り、貫が四角（断面長方形）の角材である特徴。額東や楔などない質素な構成。



別表 6. 神明系と神明系鳥居の系統図

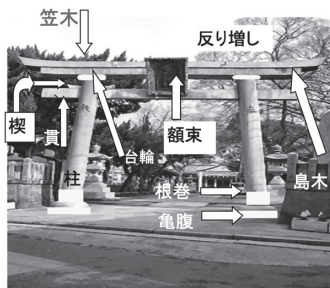
鳥居の系統図

反り増し	無	神明系	伊勢・神明	鹿島	黒木・素木	靖国					
	有	明神系	稲荷・台輪	春日	山王	中山・住吉	八幡	明神	三輪	両部・杵差	
島木	無	神明系	伊勢・神明	鹿島	黒木・素木	靖国					
	有	明神系	稲荷・台輪	春日	山王	中山・住吉	八幡	明神	三輪	両部・杵差	
台輪	無	神明系	伊勢・神明	鹿島	黒木・素木	靖国					
		明神系	稲荷・台輪							両部・杵差	
	有	明神系		春日	山王	中山・住吉	八幡	明神	三輪		
楔	無	神明系		鹿島	黒木・素木	靖国					
		明神系				中山・住吉					
		神明系	伊勢・神明								
	有	明神系	稲荷・台輪	春日	山王		八幡	明神	三輪	両部・杵差	
額束	無	神明系	伊勢・神明	鹿島	黒木・素木	靖国					
	有	明神系	稲荷・台輪	春日	山王	中山・住吉	八幡	明神	三輪	両部・杵差	
貫	内側	神明系	伊勢・神明		黒木・素木	靖国					
		明神系					八幡				
		神明系		鹿島							
	外側	明神系	稲荷・台輪	春日	山王	中山・住吉		明神	三輪	両部・杵差	
根巻・藁座	無	神明系		鹿島	黒木・素木	靖国					
		明神系	稲荷・台輪	春日		中山・住吉	八幡	明神	三輪	両部・杵差	
		神明系	伊勢・神明								
	有	明神系			山王						
亀腹・饅頭	無	神明系		鹿島	黒木・素木	靖国					
		明神系			山王	中山・住吉	八幡				
		神明系	伊勢・神明								
	有	明神系	稲荷・台輪	春日				明神	三輪	両部・杵差	



別表 8. 神明と明神系鳥居の系統図探検

鳥居名			反り増し	笠木	島木	台輪	楔	額束	貫	根巻・亀腹	類似鳥居
			そりまし	かさぎ	しまぎ	だいわ	くさぎ	かくづか	ぬき	ねまき・かめばら	
神明系鳥居	1	伊勢・神明	無	丸型直線	無	無	有	無	丸型内側	有	伊勢内外神宮・熱田神宮（伊勢鳥居）
	2	黒木・素木	無	丸型直線	無	無	無	無	角型内側	無	伊勢斎宮・野宮斎院
	3	鹿島	無	丸型直線	無	無	無	無	角型外側	無	鹿島神宮
	4	靖国	無	丸型直線	無	無	無	無	角型内側	無	神明鳥居
明神系鳥居（有色・装飾）	5	稲荷・台輪	有	角型曲線	有	有	有	有	角型外側	有	伏見稲荷大社（台輪鳥居）
	6	春日	有	角型曲線	有	無	有	有	角型外側	無	春日大社
	7	山王	有	角型曲線	有	有	有	有	角型外側	有	日吉大社・破風鳥居・総合鳥居
	8	中山・住吉	有	角型曲線	有	無	有	有	角型内側	無	明神鳥居・住吉神社
	9	八幡	有	角型曲線	有	無	有	有	角型外側	無	石清水八幡宮
	10	明神	有	角型曲線	有	無	有	有	角型外側	有	神田神社
	11	三輪	有	角型曲線	有	無	有	有	角型外側	有	大神神社・三光鳥居・両柱に柱
	12	両部・杵差	有	角型曲線	有	有	有	有	角型外側	有	厳島神社・気比神社・両柱に柱
当て方			反り増し	笠木	島木	台輪	楔	額束	貫	根巻・亀腹	
			有	直線	有	有	有	有	内側	有	
			無	曲線	無	無	無	無	外側	無	



鳥居とは神霊として鳥を招く意味。構造は2本柱に2本横木（笠木と貫）から構成。

神明系と明神系の鳥居は、笠木の下に島木が無（神明系）と有（装飾・黒塗り・明神系）の違い、笠木の反りの有（神明系）と無（明神系）による。

神明系鳥居の貫には、出る（鹿島鳥居を除く）と出ない（鹿島鳥居）を区分する。

渋谷申博『面白いほどよくわかる日本の神社』日本文芸者、井上順孝『図解雑学神道』ナツメ社、梨本敬法『神社入門』洋泉社を参照。